

スポーツ言語学会ニューズレター

No.2 2018年8月1日発行 スポーツ言語学会広報委員会

スポーツ言語学会事務局

〒570-8555 大阪府守口市藤田町 6-21-57 大阪国際大学 小倉幸雄研究室内

メール ssl_office@yahoo.com

ごあいさつ

スポーツ言語学会会員の皆様 お変わりなくお過ごしでしょうか。

来る9月15日 第5回スポーツ言語学会総会・学会大会が駒澤大学で開催され、現在準備が順調に進んでいるところです。

今回のテーマは「スポーツと外国語」です。

スポーツ言語学会では、2019年ラグビーワールドカップ、そして2020年には東京五輪、パラリンピックと大きなスポーツイベントが開催されることを鑑みて、その後のことも視野に入れながら「スポーツと外国語」がどうあるべきかについて考えようとしています。

今回はそのテーマに最もふさわしい、日本人最多の金メダルを獲得された加藤澤男先生に「運動と言語」についてご講演頂きます。

これまで体操日本を支えてこられた加藤先生が、自らの言葉で語られる「動きと言葉」についてどのように考えておられるのか、期待と興味は尽きません。

また、研究発表・シンポジウム共にスポーツと外国語に関するものがリンクしており、それぞれにおいて活発な討論が期待されます。

秋を感じる9月に、会員の皆様と駒澤大学でお会いできることを楽しみにしております。

事務局長 清水泰生

第5回スポーツ言語学会総会／学会大会（ご案内）

- 1、2018年9月15日（土）
- 2、場所 駒澤大学駒澤キャンパス 3号館（種月館）305
- 3、大会テーマ
「スポーツと外国語－東京オリンピック・パラリンピック、そして未来へ－」
- 4、受付開始 10時00分

5、プログラム (以下敬称略)

- ① 総会 10時30分～11時30分
(昼休み 11時30分～12時30分)
- ② 講演 12時30分～14時00分
加藤澤男 (筑波大学名誉教授) 演題「運動と言語」
- ③ 研究発表
 1. 14時10分～14時40分
川田真由美／山本梨沙 (関西日本語プロジェクト) 、清水泰生 (同志社大学)
演題「オリンピック日本語会話...その続き」
 2. 14時45分～15時15分
大和久 吏恵 (日本女子体育大学)
演題「東京オリンピック・パラリンピック時に役立つ必須英語表現テキスト作成」
- ④ シンポジウム 15時30分～18時00分
テーマ「スポーツと外国語ー東京オリンピック・パラリンピック、そして未来へー」
司会：清水泰生 (同志社大学)
コメンテーター：川口義一 (早稲田大学名誉教授)
パネラー (五十音順) :
板谷初子 (北海道武蔵女子短期大学)
小林勝法 (文教大学、全国大学体育連合専務理事)
坂田美恵 (東京マラソン通訳ボランティア)
山西哲郎 (群馬大学名誉教授、元日本体育学会会長、日本オリエンテーリング協会会長)

スポーツ言語学会大会・研究会報告

1) 第4回総会、学会大会、第7回理事会 (2017年9月2日、京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス)

第4回総会、学会大会、理事会が 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパスで開催された。学会大会では 台湾 淡江大学の落合由治先生が来日され、講演をして下さり、シンポジウムでは バレリーナ・作業療法士などの方々が、パネリストとして、それぞれの立場から「動きと言葉」について発表され、その後討論をしあった。

第4回総会、学会大会、第7回理事会 (2017年9月2日、京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス)

学会大会 (参加者 24 名) 懇親会 13 名
以下敬称略

- ① 講演
落合由治 (台湾、淡江大学)

タイトル：「身体と精神の復権—言語研究の全体性回復を目指して—」

② 研究発表

1. 板谷初子（北海道武蔵女子短期大学）
プロ野球球団通訳：「社会的側面」と「言語的側面」からの考察
2. 佐古恵里香（清風情報工科学院）・清水泰生（同志社大学）
タイトル：「共振する『身体活動と外国語教育』—日本語教育を中心に—」

③ シンポジウム

テーマ：「うごきとことば」

司会：来田宣幸（京都工芸繊維大学）

パネラー：

深田智（京都工芸繊維大学）

北尾浩和（京都きづ川病院理学療法士）

権野めぐみ（バレリーナ）

スポーツ言語学会 第4回大会 写真集



講演風景



講演 落合由治氏



研究発表 板谷初子氏



研究発表 佐古恵里香氏

2) 第4回研究会 (2018年1月27日、同志社大学今出川キャンパス)

第4回研究会は、雪に舞う同志社大学今出川キャンパスで開催され、川口先生の韓国語『TPRの教授法』のデモレッスンが興味深かった。ランチョンセミナーでは昼食をとりながら、『応援の言葉について』熱心にディスカッションが行われた。また、研究発表では、身体活動による英語教育とオリンピックのメディア報道の二題があり、活発な質疑応答が繰り広げられた。

山口政信会長のミニ講演、清水事務局長からの報告があり、最後は開催校を代表して平弥悠紀先生の研究発表で『動きのオノマトペ』について様々な角度からの研究報告がなされた。

第4回研究会 (2018年1月27日、同志社大学今出川キャンパス)

参加者 38名 懇親会 10名

以下敬称略

① ワークショップ

「身体感覚を利用した外国語学習—LPPから見たTPRの有効性—」

川口義一 (スポーツ言語学会副会長、早稲田大学名誉教授)

② ランチョンミニワークショップ

「アスリートへの応援の言葉を考えよう2」

進行役：清水泰生 (スポーツ言語学会代表理事兼事務局長、京都陸協、同志社大学)

③ 研究発表

1. 身体動作の英語教育

山口和之 (日本体育大学)

2. 注目されるオリンピック選手のディスコース

—リオに出場した日本・韓国・中国選手の比較—

山根智恵 (山陽学園大学)

朴珍希 (岡山市立岡山後楽館高等学校)

木村泰枝 (岡山大学)

④ ミニレクチャー

「体育・スポーツ教育とカルタ創り」

山口政信 (スポーツ言語学会会長、明治大学名誉教授)

⑤ 「スポーツ言語学会、スポーツ言語学の歩み」

語り手：清水泰生 (スポーツ言語学会代表理事兼事務局長、京都陸協、同志社大学)

⑥ 講演

「動きを表すオノマトペ」

平弥悠紀 (同志社大学)

第4回研究会 写真集



研究発表 山口和之氏



山口政信氏のミニレクチャー



平弥悠紀氏の講演



平弥悠紀氏の講演

コラムとエッセー

「人生で一番集中した 20 分間」

—TPR 体験を通じて—

佐古 恵里香

「次の学会で、川口先生が TPR のデモをされるが…」清水先生から連絡を頂いた。TPR というのは、Total Physical Response の略で、身体を使って覚える教授法のことだ。川口先生の本を読み、言葉は知っているが、実際にその授業を見たことはなかった。そして、その日は生徒役を募集するとのことだったので、できれば体験してみたいという思いを胸に 1 月の終わり、雪の降る中、同志社大学での研究会へ参加した。同志社大学は、赤いレンガ造りの建物が有名で、ちょうどその日はレンガが雪で覆われており、ここは一瞬ヨーロッパの街か、と思うぐらい素敵だった。

TPR の講義は午前の部に行われた。たくさんの有名な先生がいらっしやっており、の中で生徒役をするのは恥ずかしい気持ちになったが、勇気を振り絞って手をあげて、見事生徒役をすることとなった。ドイツ語と聞いていたのだが、韓国語で行うことになった。一体、川口先生は何か国語をお話になるんだろう。この時点で既に緊張は大だ。私の他に、2 名、有名な先生方が生徒役となり、壇上にあがった。川口先生から少しお話があった後、TPR がはじまった。

いきなり韓国語で指示をされた。私は、韓国語を一度も勉強したことがない。たぶん「立ってください。」とおっしゃっているのだろう。わからないけど、先生がジェスチャーで立つという動作をしているように見えるから、そうしてみた。合っていたようだ。一動作、一動作、気が抜けない。他の生徒役の方を見て同じように自分も動く。指示が出て動く。立ったり、座ったり、ジャンプしたり、開始 5 分で汗がでてきた。

この時点で、普通の教室の授業じゃない。なんで授業中に汗がでるんだろう。体育の時間でもないし、そもそもここは冬の寒い日の室内である。

次に、単語の練習が始まった。川口先生の私物がカバンの中からはいろいろ出てくる。ペンや辞書、教科書などだ。1 つ 1 つ丁寧にたぶん「これは辞書です」「これは扇子です」と韓国語で説明してくれるのだが、はじめて習う言語だ。すぐに覚えられない。集中しなきゃ覚えられない。間違えると川口先生は、韓国語でもう一度「辞書です」と説明してくださるのだが、連続で間違えると、外国語なのに、先生の口調が変わっているのが、わかる。

なので、私は、覚えるために、ぶつぶつ単語をつぶやくことにした。他の生徒役の方が、指示を受けている時も繰り返し単語を覚えるチャンスだ。次にあたるのは自分なのだから、その間も、集中して単語を覚えることができれば、自分の番で恥をかくことは

ないのだ。

しかし、川口先生のカバンは小さいのに、底なし沼のように、あれよ、あれよと小物がでてきて、すでに 10 点以上になっていた。一生懸命やっているが、だんだんと疲れもでてきた。単語を覚える集中力も欠けたころ、次は、「辞書をカバンの中に入れてください。」のような長い指示がはいった。絶妙なタイミングだ。そして、いつの間にか動詞と名詞を組み合わせ、簡単な指示がわかるようになっていた。開始 20 分。休憩が入った。

このたった 20 分で、立つ座るという基本的な動作と、教室で使うような物の単語を覚え、さらに、動詞もわかるようになった。神隠しにでもあったような気分だった。教室という空間でこんなにも体を動かして、楽しく、単語が覚えられるものなのかと深く感動をし、今後の日本語学習者への授業で積極的に取り入れていきたいと強く感じた。そして、日本語学習者の指示がわからない気持ちを理解することができ、日常で感じにくい様々なことに気づくことができた研究会だった。

ご教授くださった川口先生、ありがとうございました。ここに厚く御礼申し上げます。



川口先生と私

【参考文献】

川口 義一（著）『もう教科書は怖くない!! 日本語教師のための 初級文法・文型 完全「文脈化」・「個人化」 アイデアブック 第1巻』（ココ出版・2016）

「東京マラソンを走って」

清水 泰生

東京マラソン 2 年連続走って気が付いた点について書いてみたい。

①2017 年東京マラソン

私が東京マラソンを最後に走ったのは 2010 年で、7 年ぶりの東京マラソンであった。そこで思ったのは、外国人ランナーが多くなったことと多言語表示が充実していたことである。

私が、東京マラソンの前日受付会場で声をかけた外国人ランナーはアメリカ、中国、台湾、オーストラリア、スペイン、イタリア、ポーランドのランナーであった。2010 年にはほとんど外国人ランナーが見かけなかったのに今回は外国人を多く見かけた。それから、ナンバーカードの交換の場所では、ハングル、中国語、英語の表示が出ていた。2010 年は確かなかったような気がする。東京マラソンは 2013 年から世界六大マラソン大会になり、世界から多くの人が参加するようになったので多言語表示をするようになったのであろうか。私がボストン、アテネ等の海外マラソンで走った時に話をした外国人ランナーの多くは、(世界六大マラソン中で唯一のアジアの大会) 東京マラソンを走りたいと言っていた。

東京マラソンの HP は日本語以外に英語版が出ている。世界六大マラソンで参加資格タイムのある大会(ボストンマラソン) もしくは参加資格タイムでエントリーできる(NYC、シカゴマラソン等) 大会の場合、参加資格タイムは原則として前年の AIMS (国際マラソン・ディスタンスレース協会) 公認の大会のタイムでなければならない。そして、主催者は、エントリーした人の申請した資格記録をその大会の HP (英語版) から調べている(虚偽なく申請しているかどうかを調べている)。もし資格記録に該当する大会が、英語版の HP がなければ、エントリーをする人が、自身の大会の記録証に英語の翻訳をつけて大会事務局に提出することになっている。(私のボストンマラソン 2018 に出場した場合、私の参加資格タイムが東京マラソン 2017 の記録だったので、ボストンマラソン HP の大会エントリーのページに名前(ローマ字) とタイムを打ち込み、東京マラソン 2017 のアイコンにカーソルを当ててクリックするだけで簡単にエントリーができた。資格記録のチェック作業等はボストンマラソン主催者がしてくれる) なお、私が出場した 2018 年ボストンマラソンは前日のナンバーカード引き換え会場、および当日会場ともすべて英語表示のみであった。

②2018 年東京マラソン

何と 2017 年に続いて 2018 年も東京マラソンの抽選に当たった。さて、レース。レースはスピードの切れも今一つで中間点を 1 時間 31 分台で通過した矢先に両足けいれんで 22 キロ付近から歩いてしまった。歩きながら、声援はどうなっているのかを注意深く観察した。やはり声援は、「頑張って」、「頑張れ」が多く、「ファイト」がこれにつづいた。ボードに名前と応援メッセージが多かったが、海外で見られる「ヒュー」などの雄たけびは少なかった。中間点 1 時間 30 分前後で通過するランナーは 22 キロ付近で歩く人は全くだ

ないので、沿道から「大丈夫か」「無理するなよ」の声援が多かった。26 キロ付近から足の状態もましになったので残り 16 キロを 1 キロ 5 分のペースで走り 3 時間 34 分台でゴールした。

③最後に

東京マラソンを走ってみて気がついたことがある。日本人ランナーは全くと言っていい程、外国人ランナーに声をかけないことである。一方、私がボストン、アテネ等で走った時、多くの外国人ランナーから話かけられた。日本人一般ランナーは、外国語が苦手な勇気を持ってないかもしれないが、ホスピタリティーの精神で勇気をもって外国人ランナーに声をかけてほしい。そのことが国際親善につながると私は思う。

*世界六大マラソン（ワールドマラソンメジャーズ）については以下の URL 参照。

<https://www.worldmarathonmajors.com/>

AIMS については以下の URL 参照。

<http://www.aims-worldrunning.jp/about/>

写真



東京マラソン 2017 前日の受付
ハングル語の表示



東京マラソン 2017 での六大マラソンの紹介コーナー

参考

ボストンマラソン 2018 受付会場①



ボストンマラソン 2018 受付会場②



ボストンマラソン 2018 エキスポ



ボストンマラソン 2018 スタート付近



「言語とダンス」

川田 真由美

音楽がかかるとダンスが始まる。頭のなかでは想像できる自然な流れだが、いざ「踊りましょう」と手を差し出されると「じゃあ」と軽く答えられなかった。彼らは言葉だけではなく、ダンスでもコミュニケーションをとるのだ。フランス人が辟易するほどのおしゃべりな国、スペインでの話。0時を過ぎてからの夕食にも重い目を必死に開けながら、彼らの話とおいしい食事に助けられてついていく。テーブルを囲み、食べて話す。日曜の朝は、家族でミサに行き、子供も一緒に行きつけのバルに入る。居合わせた客と話をする。地下鉄もバスも話し声で賑やか。スペイン人の人と人との壁の無さ。彼らは年齢も職業も超えて対等に話す。誰とでもコミュニケーションをとる術を持っている。

ダンスの話にもどる。彼らは嗜みとしてサルサ、チャチャを踊る。学生時代に2週間ほど習うようだ。冒頭でののはなし。手を差し出され、踊れなかった私は日本でダンス教室の門をたたいた。スペインでの踊りがサルサとは知らず、入門したのは社交ダンスだった。スタンダード部門とラテン部門に分かれ10種類もあるダンスに、もちろんサルサは入っていない。だが、ラテン部門5種類の中のルンバに魅かれた。愛のダンスと呼ばれるルンバ。もちろんペアダンスである。4カウントの2カウント目が重要なルンバ。ステップを習えば習うほど、のめり込む。同じラテン部門のチャチャでもサンバでもジャイブでもなくルンバなのだ。ふと思う。ルンバの何がいいのか。音楽だ。いや、歌詞がスペイン語だからいいのだ。悲しい詞なのか、喜びの詞なのか意味を理解しているわけではない。だが、ルンバのリズムにはスペイン語のあの重たさが合うのだ。ワルツはどうだろうか。ワルツはスペイン語では重すぎる。英語の軽さが合う。（もちろん言語の重い、軽いは私の感覚である。）

言語とダンス。ここまで密接だとは考えもしなかった。今年は英語の曲で盆踊りがあったとマスコミに取り上げられていた。盆踊りのグローバル化には英語が必要だろう。だが、「BON ODORI にはやっぱり日本語だね。」と海外で聞く日がくるかもしれない。

編集後記

お待たせしました。ニューズレター2号です。今回は原稿、写真の集まりが悪く、映像でのお伝えが十分ではなく、申し訳ありませんでした。

次回の第3号では、今回の研究会、学会で掲載されなかった写真等も出来るだけ紹介する予定です。

なお、第3号の原稿締め切りは2018年12月31日までとなっています。「スポーツとことば」はもちろん「ことば」のみ、または「スポーツ」のみの内容でも歓迎します。ふるって投稿下さい。皆様の原稿をお待ちいたします。原稿の提出先は事務局まで。

清水 泰生

ニューズレターの編集、ウェブサイトの更新などをしております。これらのことを通じて、これからもスポーツ言語学会を盛り上げていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

佐古 恵里香

今後、会報に携わることになりました。会員の皆様楽しんで頂けるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしております。

山本 梨沙

会報の編集に携わることになりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

川田 真由美